

出前授業を東京都多摩市の帝京大学小学校にて実施 ～海運や船員の仕事について紹介～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、商船や海事施設等の見学会、授業への協力や動画コンテンツの制作等に取り組んでおります。

今般、9月11日（水）に、日本船長協会と協力し、東京都多摩市にあります帝京大学小学校6年生およびその保護者を対象に、海運や船員の仕事について出前授業を行いましたのでその模様をお知らせします。同校での出前授業は2021年より実施しており、今回で4回目となります。

出前授業は2部構成にて行い、前半は当協会から海運全般のことを、後半は日本船長協会から船や船員について話をしました。



前半では、日本の貿易量のうち海運が占める割合や、どのようなものを輸入しているかなどをクイズも交えて紹介、船がなくなったら日常生活がどうなるかなどを説明して、海運の重要性を伝えました。

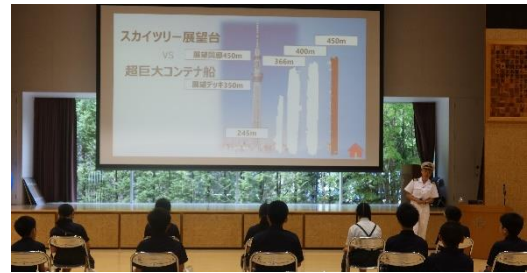
また、海上輸送手段の一つとして、街中でよく目にするコンテナを題材に説明。児童にコンテナ型の模型を配布し、中に入れた消しゴム（サッカーボール/フライドポテト）をヒントにドライコンテナとリーファーコンテナの違いを考えてもらうとともに、運ぶものに応じてこれら2種類のコンテナ以外にも様々な特徴のコンテナがあり、身の回りのほとんどのものをコンテナ船が運んでいることを説明しました。



その後、白地図を配布し、児童にサッカーボール（パキスタン産）とフライドポテト（アメリカ産）が夫々どのような航路で日本に運ばれてくるのかを実際書き込んでもらい、正解の航路を紹介するとともに、アメリカ東岸から日本への航路で通過するパナマ運河について、その仕組みや役割を解説しました。

前半の最後には、児童全員で「船長！」と呼ぶ声に応じて日本船長協会の船長が制服姿で登場、拍手で迎えられました。

船長からは、船の大きさや船を動かすために必要な計器や設備、航海士・機関士の仕事内容や勤務体系、そして国籍が異なるなど多様な背景をもつ人が一緒に働いていること等について、自身の経験も交えながら説明しました。



また、船内の過ごし方について、コックがつくる様々な国の料理を食べられること、運動器具やゲーム等の娯楽も充実していること、普段は目にできない絶景を見られること、船内のWi-Fi環境などを紹介。児童は興味深く聞いていました。

最後に、船員の仕事体験コーナーとしてロープワークを体験。エイトノットとボーラインノットについて、用途と結び方の説明を受けた児童は熱心に取り組んでいました。



質疑応答では、児童から船長に「船員さんは何時に起きているのですか？」と質問がありました。航海士は航海当直 30 分前に、船長は 6 時ごろ起きますと答えました。児童は海や船へ関心を強くするとともに理解を深めていました。

当協会は引き続き、海運の重要性を広く知っていただくための活動を展開してまいります。

以上